

## 1 はじめに

会津森林管理署は、福島県西部、会津若松市のほぼ中心地、会津のシンボルと言われる「鶴ヶ城」にほど近い場所にあります。当署庁舎からは、鶴ヶ城天守閣や日本百名山に選定されている磐梯山、雄大な飯豊連峰などを眺めることができ、自然が豊かで四季折々の風景を肌で感じられる環境にあります。

会津若松市は、四方を山に囲まれた盆地状となっており、日本海側気候の影響を受け、夏は暑く、冬は積雪が多く寒冷となる典型的な内陸性の気候となっています。

当署の管理区域は、いわゆる会津地方と言われる地域で、2市10町2村（会津若松市、喜多方市、会津美里町、下郷町、南会津町、猪苗代町、磐梯町、北塩原村、西会津町、会津坂下町、柳津町、三島町、金山町、昭和村）にまたがる約95千haの国有林野を管理しています。

管内の森林は、ブナ、ナラを主体とする天然林が約7割を占め、スギ、カラマツ等の人工林が約2割となっています。全国的な傾向と同様に、利用期に達している人工林が多く、10齢級以上の林分が面積で7割近くにもなっています。



【ライトアップされた鶴ヶ城と桜】

## 2. 会津地域のPR

会津地域には、自然豊かな景勝地や歴史探訪地、飲食や宿泊などの観光に関連した魅力的なものが沢山ありますので、ほんの一例を紹介します。

### (1) 観光

会津地方を一言で表すならば、多くの方は「観光地」と答えるでしょう。管内には県内有数の観光名所が多く存在し、国内はもとより多くの外国人観光客が季節を問わず訪れています。四季折々で違う姿を見せる桧原湖や五色沼などの裏磐梯、猪苗代湖を中心にした表磐梯、鶴ヶ城や白虎隊で知られる飯盛山、約400年前の伝統的茅葺き屋根の宿場町をそのまま残した大内宿、只見川、伊南川流域の奥会津地域など、自然と歴史文化に関連した数多くの有名観光地があります。これらの周辺には宿泊施設も多く、小規模ながら豊富な湯量を誇る会津東山温泉、芦ノ牧温泉、熱塩温泉などの他に、それぞれの地域に秘湯的な温泉が点在し、観光客に癒やしの場を提供しています。

## (2) 食文化

太平洋と日本海の間位置する会津地域は、交通機関が発達していない時代には、海産物の流通が塩漬けや干物に限られていました。その時代の影響からか、今でも身欠きニシンなど乾物を用いた食品が多く見かけられます。山間地が多くそば文化も継承され、喜多方市山都地区や猪苗代、磐梯地区は全国的に「手打ちそば」の有名な地域となっています。また、昭和の時代にラーメンで地域おこしを成功させた喜多方ラーメンは、日本三大ラーメンの一つとして



【人気店の喜多方ラーメン（極太手打麺）】

数えられています。人気店には、連日開店前から行列ができる盛況ぶりとなっており、麺文化は欠かせない産業の一つで、地域経済の一端を担っています。

## (3) 日本酒

福島県は、全国新酒鑑評会9年連続金賞受賞の日本一の酒処として有名です。中でも会津地域の日本酒は400年の歴史を有し、福島県の酒造りは江戸時代に会津から始まったと言われていています。会津藩は、米どころできれいな湧き水が豊富にあったことに目を付け、藩として酒造りを奨励しました。会津地域には今でも多くの酒蔵があり、全国的にも知名度が上がって、地元でも入手困難な銘柄もあります。酒の仕込み方に、「山廃仕込み」というものがありますが、これは明治時代に会津地方で開発された仕込み方だそうです。

## (4) 奇跡の復活

JR只見線は、会津若松駅～新潟県魚沼市の小出駅を結ぶ全長135kmの豪雪地帯を走るローカル線です。「紅葉の美しい鉄道線路」や「好きなJRローカル線ランキング」で1位に選ばれたことのある路線は、2011年の新潟・福島豪雨により橋梁が流失しましたが、2022年10月、11年ぶりに全線運転が再開され、奇跡の復活と言われました。コロナ禍前は、SNSで沿線の光景が発信され、多くの外国人旅行客でにぎわっていました。コロナ感染拡大により訪日外国人が減りましたが、徐々に回復傾向にあり、観光面、経済面で大いに期待されています。

## (5) 山岳スポーツ

登山好きにはたまらない多くの山々がありますが、中でも日本百名山に数えられる飯豊連峰(2,105m)、磐梯山(1,819m)、吾妻山(2,035m)等は多くの登山者でにぎわっています。飯豊山山頂南峰には飯豊山神社があり、登山道は神社の参道として管理され、地籍は新潟県、山形県でもなく、福島県喜多方市となっています。

また、国有林を活用したスキー場が5箇所あり、国内有数の集客力を誇っています。スキー場の中には、冬場に限らず通年でリフトを運行し、高山植物や紅葉の鑑賞等に訪れる観光客を楽しませています。

### 3 森林管理署の取組

#### (1) 効率的な森林整備

森林資源が充実し、利用期に達している人工林が豊富にある一方で、林業従事者の高齢化が顕著に現れ、新たな労働力の確保が急務となっています。少子高齢化等により、どの産業も人手不足に陥る状況で、新たな従事者の確保は極めて難しく、見通しは暗い状況と言わざるを得ません。人手不足を少しでも穴埋めするためには、高性能林業機械の導入・確保と合わせ生産性の向上は必須となっています。同時に、林業は全産業の中で最も危険で労働災害が多い職種と言われており、効率性ととも安全性の確保が強く求められています。

生産性向上については、高性能林業機械の導入は待ったなしで、民有林も含めて早期導入の検討を促すため、処理能力を実際に見て感じられる検討会を実施しています。また、安全性向上のため、伐倒作業時の掛かり木発生頻度を少なくし、搬出も容易な列状間伐について、民有林への拡大も視野に、検討会の開催と合わせて、列状間伐実施箇所において伐倒の安全性、搬出の効率性について意見交換する機会を作っています。



【生産性向上現地検討会】



【R4年度列状間伐実施箇所】

#### (2) 安心・安全に向けた治山事業

地域住民の方々の安心・安全に向け、大雨災害による被災地の復旧や、災害を未然に防ぐための治山事業を計画的に実施しています。



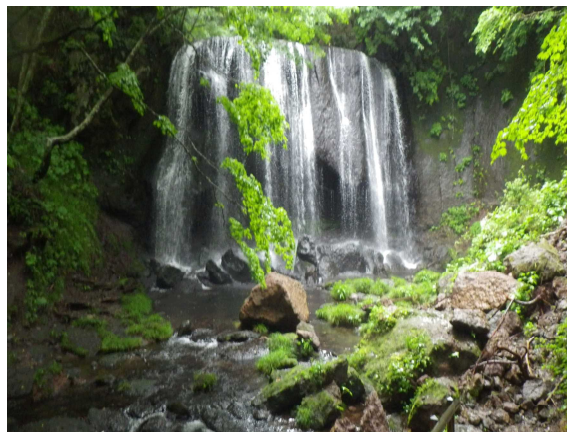
【大雨災害の復旧治山（金山町）】



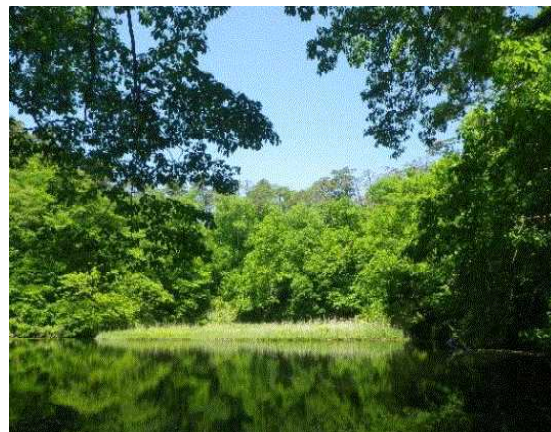
【ロッククライミング工法の山腹工（会津若松市）】

### (3) 観光資源としての国有林

自然豊かで多様性に富んだ国有林には、森林レクリエーションや景勝地として活用されている森林があり、多くの方に利用されています。特に、「日本の美しい森お薦め国有林」が5箇所選定されており、穴場的スポットとして隠れた人気コースとなっています。当署では、お薦め国有林のリーフレットを作成したり、多言語標識等を整備し、観光資源としての国有林も広くPRしています。



【達沢不動滝風景林（猪苗代町）】



【蓋沼自然観教育林（会津美里町）】

## 4 今後の取り組むべき課題

今後の取り組むべき課題は大きく2つあると考えています。

### (1) 林業事業体、林業従事者の確保

利用期に達している人工林は、民有林、国有林問わず全国的に非常に多くなっている現状にあります。資源の有効活用や二酸化炭素の森林吸収源対策の観点からも、森林を「伐って、使って、植える」という林業のサイクルを確実にしながら、次世代に引き継ぐための適切な森林整備を図っていく必要があります。

林業の始まりは「木を切る」ことです。木を切らなければ林業はスタートしません。林業に従事する人は減るばかりで、あと何年か過ぎれば山で働く人がいなくなる時代がやってくるかもしれません。これらに対処するため、林業労働者や林業事業体の確保に向けて、事業の継続的・安定的発注や林業従事者の労働環境の改善に向けた更なる機械化の推進など、事業体や関係機関と連携しながら様々な取組を行っていきたいと考えています。

### (2) 高齢級人工林の若返り

管内には、高齢級の人工林、既に利用期に達しても収穫できない（していない）林分が増えている状況にあります。スギは高齢級になっても年々成長を続け、大径化していくことは容易に想像できますが、昔と違って、太くなればなるほど売れなくなる、値段が安くなる傾向にあります。製材工場の設備の問題やむく材利用の減少から、大径材は敬遠されているからです。これらの課題には、川上、川中、川下が連携しながら、知恵を出し合ってより良い解決策を見い出していかなければならないと考えています。

また、カラマツは高齢級になればなるほど、芯腐れ等が発生します。ほとんどの人工林では、おおむね60～70年を超えると芯腐れが発生します。先人達が苦勞して植え、育ててきたカラマツを、有効に使わなければ申し訳ない気持ちになります。せつかくある資源を「使えるうちに伐る」、「伐ったら植える」よう計画的に伐採・造林しながら、森林の若返りを図るよう取り組んでいきたいと考えています。

## 5 おわりに

陸奥国会津藩9代藩主の松平容保（かたもり）公が京都守護職となって、幕末の表舞台に会津藩が登場して以来、会津の人たちは時代の荒波に翻弄され続けました。戊辰戦争では、鶴ヶ城に5千人を超える人々が入り、弾薬の製造や負傷者の看護等をしていたと言われていています。最後は、新政府軍の猛攻の前に、鶴ヶ城で籠城すること一か月、降伏することとなりました。城下では、白虎隊や婦女子の自刃など数々の悲劇が起きたことで知られています。

年末時代劇特番等で、新撰組などが多く取り上げられ有名な会津藩です。スペンサー銃を肩に掛け、男装して藩士として戦った山本八重子を主人公に、女優の綾瀬はるかさんが主演したNHK大河ドラマ「八重の桜」がさらに知名度を上げました。このドラマでも取り上げられた「什（じゅう）の掟」の中に、「ならぬことはならぬものです」とあります。これは会津藩士の子弟に会津魂を育んだ7箇条の教えの一つとなっています。この教えは、平成14年に会津若松市が策定した「あいづっこ宣言」にも盛り込まれ、今もなお、会津の人々の精神となって脈々と引き継がれています。

会津に赴任してちょうど1年となりました。夏は朝晩の寒暖差が大きくそう暑さも感じなく、冬も想像していたよりもずっと雪が少ない、四季の移り変わりを実感できる自然豊かな環境です。水がおいしく、米もおいしいということで日本酒は絶品

です。馬刺しも有名で、会津の歴史を堪能しながら、日々楽しんでいきます。

会津地方は四季を通して「見て、食べて、体験して、泊まる」ことができるスポットが沢山あります。歴史や鉄道マニア、極寒の氷上ワカサギ釣り（桧原湖のワカサギは昭和23年当時の猪苗代営林署長金森徹雄氏が放流し、栽培漁業を推奨）、ラーメン、そばの食べ歩きなど心を引きつける魅力的な地域となっています。

新型コロナの影響により、観光業や飲食業は大きな打撃を受けました。感染拡大も落ち着き、徐々に以前の姿に戻りつつある今日ですが、地域産業の維持、発展に向けて、多くの方々に足を運んでもらえればありがたいと感じています。

皆さん、是非一度『会津に来てくんなんしょ！』



【会津若松市策定のあいづっこ宣言】